

学校法人常翔学園 2022年度事業計画

＜目次＞

■ 1 ■	事業計画	P 1
■ 2 ■	事業計画 詳細	
	法人本部	P 2
	大阪工業大学	P 3
	摂南大学	P 5
	広島国際大学	P 8
	常翔学園中学校・高等学校	P10
	常翔啓光学園中学校・高等学校	P12

■ 1 ■ 事業計画

区分・事業計画名称 [申請部署]	件数 (件)
法人本部	
1. 学園創立100周年各種事業の強化による常翔ブランドの確立 [創立100周年記念事業事務局]	1
大阪工業大学	
1. 教育の質保証の強化 [学長室、教務部、全学部]	2
2. 大宮キャンパス再開発 [学長室、図書館]	
摂南大学	
1. 寝屋川・枚方キャンパス整備事業 [学長室（会計課）]	2
2. 摂南大学現代社会学部設置推進事業 [副学長、学長室（企画課、会計課）、入試部]	
広島国際大学	
1. 教学マネジメントにおける学修成果の可視化とアセスメントの実行 [教育・学生支援機構]	2
2. 学園創立100周年および広国大開学25周年記念事業の実施 [学長室]	
常翔学園中学校・高等学校	
1. 中学校STEAM教育の実施に伴う、探究授業の拡大 [高校教頭、中学教頭、教育イノベーションセンター]	2
2. グローバル教育に伴う国際交流事業、英語4技能に対する生徒の能力向上 と教員の新しい指導法の修得 [高校教頭、中学教頭、教育イノベーションセンター]	
常翔啓光学園中学校・高等学校	
1. 学園創立100周年記念啓光祭実施事業 [生徒指導部、事務局]	1
合 計	10

■ 2 ■ 事業計画 詳細

法人本部：創立100周年記念事業事務局

No.1 事業計画名称:学園創立100周年各種事業の強化による常翔ブランドの確立

[申請部署:創立100周年記念事業事務局]

【必要性・目的、実施計画等】

《必要性・目的》

「学園創立100周年記念募金」の目標額達成に向けて3年継続で実施している創立100周年記念事業の最終年度となる。学園および設置各学校のステークホルダーとの関係強化を図るとともに、寄付文化の醸成に努め、継続的な寄付につなげていく。また、創立100周年記念事業を完遂することにより常翔ブランドの確立を図る。

《実施計画》

【2020年度～2021年度実施状況】

創立100周年記念事業として2020年度と2021年度には、「学園創立100周年記念募金」の趣意書を作成し、設置各学校と連携しながら取引先企業を中心に募金依頼の訪問を開始した。また、「古本募金の強化」、「学園創立100周年記念サイトの立ち上げ」、「常翔学園創立100周年記念コンサートの開催」、「100周年PRポスター・タペストリーの作製」、「常翔歴史館主催によるミニ企画展の開催」、「学園創立100周年記念シンボルキャラクターの作製」などを行ってきた。

【2022年度計画】

最終年度の2022年度は、上記のこれまでの活動に加えて、①「学園創立100周年記念式典」の開催、②新聞広告の実施、③「100年史」の作製、④「FLOW特別号(100号)」の作製、⑤学園内3大学合同シンポジウムの開催、⑥常翔歴史館主催による京都・仁和寺とのコラボイベントの開催、梅田キャンパスでの企画展示、⑦常翔学園創立100周年記念コンサート(2022年度分)の開催などを行い、「常翔学園」を広く学内外にPRし、常翔ブランドの確立を図る。

【具体的指標・効果（成果検証）】

「学園創立100周年記念募金」の目標額の達成に向け、鋭意努力する。

2018～2019年度目標額:5億円(累計5億円)[実績:175,875,075円]

↓

2020年度目標額:5億円(累計10億円)[実績:185,443,244円、累計:361,318,319円]

↓

2021年度目標額:5億円(累計15億円)

↓

2022年度目標額:5億円(累計20億円)

【必要性・目的、実施計画等】

《必要性・目的》

『2040年に向けた高等教育のグランドデザイン』(2018年中央教育審議会答申)で「教育の質の保証」が謳われ、認証評価の第3サイクルでは「内部質保証」が重点項目となった。また、ウイズコロナ・ポストコロナの時代において、デジタル技術を活用した教育の可能性を追求することが求められている。さらに、今後到来する予測不可能な時代においては、専攻分野についての専門性だけでなく、基礎的で普遍的な知識・理解と汎用的な技能や数理・データサイエンス等の基礎的な素養を持ち、新たな価値を創造する能力が求められる。このような、社会的な要請を受けて、以下の施策を実施する。

《実施計画》

①教育の質保証にかかる取組の推進

2022年4月～7月 IR集計システムによる集計作業(IR年報の作成)

2022年7月 IR年報完成、2021年度内部質保証/IR活動計画確定

2022年7月～2023年1月 各学部によるIR年報の分析およびFD(教育改善)活動、ディプロマ・サブリメント・システムおよびIR分析システムを用いた修学支援

2023年3月 自己評価・IR委員会において各学部の活動について確認

②デジタル技術を活用した教育の質の向上

(通年)・学修環境の再構築検討(適切なLearning Managementシステム※、DSシステム・IRシステム機能強化)

※学園設置3大学間の連携を可能とする共通プラットフォーム

・教室設備の在り方検討

(上期)・検討WG設置、授業形態・授業運営の多様化にかかる方針やルール検討

(下期)・対象科目の検討、授業準備

③リベラルアーツ科目群の整備

(通年)・教育課程、卒業要件等の枠組み、授業形態等運用の検討

・対象科目の検討

④データサイエンス教育の全学展開

(通年)・対象科目でのデータサイエンス教育実施

・学生アンケート実施、学修内容調整

(上期)・取組概要および専用ホームページの検討と公開、実施報告会の開催

(下期)・自己点検評価実施、認定申請書作成準備、実施報告会の開催

⑤学園設置3大学間での『連携開設科目』の検討

(通年)・学内および3大学の検討体制整備

・実施内容の構想検討[教学上の連携を図る意義・目標等]

【具体的指標・効果(成果検証)】

①教育の質保証にかかる取組の推進

客観的指標に基づくディプロマ・ポリシーの達成度、自己点検(学生アンケート)に基づくディプロマ・ポリシーの達成度、授業外学修時間、卒業時累計GP、ディプロマ・サブリメント・システムを用いた修学指導を受けた学生の割合、就職率、中堅・大企業就職率、大学院進学率

②デジタル技術を活用した教育の質の向上

デジタル技術を活用した、「学修者本位の教育の実現」、「学びの質の向上」に資するための取組について検討開始

(2023年度からの実施を目指す)

③リベラルアーツ群の教育課程の編成

2023年度入学生からの展開に向けた検討

④データサイエンス教育の全学展開

全学部で開始、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」申請・認定(2023年度)に向けた準備

⑤学園設置3大学間での『連携開設科目』の検討

大学設置基準第十九条の二に規定されている『連携開設科目』について2023年度以降の開設に向けた検討

【必要性・目的、実施計画等】**《必要性・目的》**

将来に亘り「選ばれる大学」として明確な優位性を持って社会的な認知の獲得を目指す本学にとって、並行して相応のキャンパス環境の整備を進めるとともに、耐震性等の懸念を晴らすことは喫緊の課題である。

5号館跡地に新5号館を建設し、老朽化が進む8号館の図書館、ラーニング・コモンズおよび7号館の工学部一般教育科、総合人間学系教室、教育センター等を移転し、大学のシンボルとして相応しい図書館と新たな教育環境を整備する。

図書館には3フロアに広がる吹抜け空間を設け、そこから見上げる本棚は「ブックキャニオン」をイメージする特徴的な構造とし、北側の閲覧席からは雄大な淀川の流れと北摂連山、六甲の山並みを眺めながら学習することができる。各フロアには広さや様式の異なるラーニング・コモンズを設置し、個人学習、少人数のグループ学習から最大150名規模の授業まで、多様な学習ニーズに応える。

図書館等移転後の8号館は、7号館の高層階と低層階に分散された事務組織を移転、集約させるために改修工事を行い、効率的な組織運営と学生サービス窓口の充実を図る。

7号館は建築後45年以上が経過しており、耐震基準を満たしていないため解体する。解体跡は大宮キャンパスの正面玄関として相応しい空間に整備する。

別途、常翔中高東館から大阪市営城北住宅跡地までの敷地を一体でスーパー堤防化する計画に伴い、第2部室センターの新築・解体工事を行う。

《実施計画》

新5号館新築にかかる2022年度以降の予定

2022年4月 着工

2023年5月 竣工

2023年夏頃 供用開始

第2部室センター新築・解体工事にかかる予定

2022年 8月 竣工

2022年10月 供用開始

2022年10～12月 解体

【具体的指標・効果（成果検証）】

計画の遅延なき遂行

【必要性・目的、実施計画等】

本事業は、摂南大学の2022年度特別推進事業制度により採択した案件のうち、特に重点的に推進する整備事業について掲げる。

≪必要性・目的≫

①[寝屋川キャンパス]新校舎等建築工事業(学長室会計課)

2023年4月に現代社会学部(仮称)の開設を予定している。これに伴い新棟を建設し、教室、ラーニングcommons、教員研究室、ゼミ室等を設置する。また外構およびバスペイの整備を併せて行い、寝屋川キャンパスのシンボルとなるような建物とする。

②[寝屋川キャンパス]国際会館リフォーム事業(学生部学生課)

摂南大学国際会館は建設から20数年が経過し、随所に経年劣化による故障等が発生している。入居料は建設当時のままであり、近隣の民間マンションの家賃と比較して割高感が感じられ、設備も見劣りしていることから新規入居者の確保が難しくなっている。また、入居しても1年以内に退居するケースも発生している。これらを解消し、新規入居者の確保および入居者の満足度を高めるため全面的にリフォームを実施する。

③[寝屋川キャンパス]住環境デザイン学科・スタジオ教室改修工事業(理工学部)

住環境デザイン学科は2021年度入学定員増や定員超過により一学年の学生数が約20名増となった。これにより、2021年度入学生が3年生となり、専門性の高い演習系授業を履修する2023年度には12号館5階の住環境デザイン学科の演習系教室のキャパシティを大きく超え、学科を特色づけるワークショップやグループワーク、合同ゼミなどの授業を行うことが不可能になる。これを解消するため12号館6階を改修し、教育・研究環境の改善を行う。

④[枚方キャンパス]6号館3階研究室および共同利用機器室の用途変更並びに実務系教員居室・学生スペースへの改修工事業(薬学部)

薬学部における中長期計画の研究室・分野の統廃合および2022年度以降の教員採用計画にあたり、実務系教員を6号館3階に集約する予定であるが、講師以上の教員が使用する居室および学生スペースが不足している。これを解消するため6号館3階の「医療薬学研究室1・2」、「病理学研究室1～4」および「共同利用機器室(組織解析室)」を改修し、教員居室と学生スペースに用途変更する。またこれに伴い、1号館3階「共同機器室」と「印刷室」を改修し、「共同利用機器室」に変更する。

≪実施計画≫

①[寝屋川キャンパス]新校舎等建築工事業(学長室会計課)

新棟は地上3階建とし、1階は500人を収容できるホール形式の大教室や学生が自由に利用できるラーニングcommonsを整備、2階は教室とゼミスペース、3階は教員研究室とゼミ・ラーニングcommonsを設置する。新棟の前にはバスペイを整備する。[一部は現代社会学部の設置経費に該当]

工事期間:2021年8月～2023年1月

②[寝屋川キャンパス]国際会館リフォーム事業(学生部学生課)

本事業は2018年度から年次進行で実施しているものである。2022年度は6室を実施する(学生居室全70室のうち68室完了)。床クッションフロア、壁クロス、巾木の全面張替え、網戸交換、照明器具のLED化、給湯器交換、風呂場・流し台の蛇口、シャワーヘッド交換、玄関ドア塗装、ハウスクリーニングを実施する。

工事期間:2022年5月～8月

③[寝屋川キャンパス]住環境デザイン学科・スタジオ教室改修工事業(理工学部)

12号館6階の「理工学部学事顧問室」、「坂本教授室」、「景観デザイン研究室」の3室を1室にして「スタジオ教室」に改修する。部屋内に1カ所可動間仕切壁を設け、少人数ゼミからワークショップなどのアクティブラーニング授業に対応できる教室とする。

工事期間:2022年4月～2023年3月

④[枚方キャンパス]6号館3階研究室および共同利用機器室の用途変更並びに実務系教員居室・学生スペースへの改修工事業(薬学部)

6号館3階に実務系教員の居室を集約するとともに学生スペースを設ける。6号館3階にあった共同利用機器室を1号館3階に移転する。

・実務系教員居室・学生スペース増設工事

工事期間:2022年9月～2023年3月

・共同利用機器室への改修工事

工事期間:2022年4月～6月

【具体的指標・効果(成果検証)】

①[寝屋川キャンパス]新校舎等建築工事業(学長室会計課)

入学定員増および改組ならびに新学部開設により、寝屋川キャンパスは学生数が大幅に増加する。現状でも教室数は余裕がない状態となっている。新学部設置に合わせて新棟を建設し、教室やゼミ・ラーニングcommonsを増加することにより、これらの問題を解消する。新棟は新学部用の建物ではなく、寝屋川キャンパスのシンボリックな建物と位置づける。500人を収容できるホール形式の教室では、講演会や学会が実施できる。1階の広いラーニングcommonsは、学生が誰でもいつでも自由に利用でき、グループワークから個人学習まで対応できる自主学習の場を設けるほか、2・3階にはゼミ・ラーニングcommonsが実施できるオープンスペースを多く取っており、空いている時間帯には学生が自由に利用可能とし、学内に様々な学びの場を提供する。また、新棟の前にはバスペイを整備する。この位置は教室が多く配置されている5・11号館にも近く、大学に到着するバスから降車する学生や教職員がスムーズに入構できることになる。

②[寝屋川キャンパス]国際会館リフォーム事業(学生部学生課)

全面リフォーム実施により、新規入居者の確保および継続入居者の増加に繋げる。

入居率はリフォーム前と比較して10%程度上がっている。年度途中での退居も減少している。また、入居中の学生からも設備面での不満がなくなった。

③[寝屋川キャンパス]住環境デザイン学科・スタジオ教室改修工事業(理工学部)

スタジオ教室設置に伴い、複数のグループが互いに学び合える環境となり、実践的かつ社会現場に近い教育・研究環境が向上するため学生たちの満足度が上がり、質の高い研究や作品が生み出される成果が期待できる。これにより、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを満たせるため、結果としてアドミッションポリシーを十分に満たす新入生の入学が期待でき、さらに教育的効果をあげる財産設備となり得る。

④[枚方キャンパス]6号館3階研究室および共同利用機器室の用途変更並びに実務系教員居室・学生スペースへの改修工事業(薬学部)

薬学部では2021年度からすべての研究室・分野を基礎系、教育系、実務系に分類し、各系の主たるミッションの明確化と強化を目的とする組織改革を行っている。実務系研究室は2022年4月1日付で臨床教育学域(仮称)を冠する予定であり、全実務系研究室が協働して病院・薬局実務実習やその前後教育で中心的役割を担う。現在、実務系研究室や教員居室は1号館および6号館に点在しており、教員間の連携が希薄になっている。実務教育を重視する2024年4月開始の新コア・カリキュラムに向けてハード(施設)、ソフト(教員)の両面を整備し、本学の実務教育体制の強化を図る。

No.2 事業計画名称: 摂南大学現代社会学部設置推進事業

[申請部署: 副学長、学長室(企画課、会計課)、入試部]

【必要性・目的、実施計画等】

≪必要性・目的≫

①現代社会学部開設事業(学長室企画課、会計課)

2015年に創立40周年を迎えた本学は、さらなる改革として創立50周年を見据えた成長戦略「SETSUDAI VISION 2025」を策定した。現在は、学園長期ビジョン達成の最終フェーズである第Ⅲ期中期目標・計画(2018年度～2022年度)に基づき、実現に向けて取り組んでいる。

ビジョン実現のための目標の1つ「多様な側面から課題解決に取り組む総合大学への進化」の達成、そして、本学のさらなる発展のためには、「建学の精神」「教育の理念」に基づき、現代社会の諸課題と正しく向き合い、よりよい社会の実現、複雑化する現代的諸課題の解決に向けた、人間力・実践力・統合力の養成が不可欠であることから、今般、摂南大学の新たな学部として「現代社会学部」を2023年度に設置する。

②新学部開設に係る学生募集広報事業(入試部入試課)

18歳人口の減少期にあるなか、政府の大学入試改革の導入、コロナ禍による受験生の安全志向や地元志向が高まり、一人あたりの受験校数に加え、1大学内での併願数も減少している。一方、入学定員を増やし、合格者増となった上位大学への合格可能性が高まるなど受験生の動向を左右する大学入試を取り巻く環境が年々変化している。

このことは2022年度公募制推薦入試の志願者数にも現れ、いわゆる「摂神追桃」と呼ばれるグループ層を境に上位大学は志願者数が増加し下位大学は志願者を減少している傾向がある。

このような状況下における現代社会学部の2023年度入試(2022年度)の学生募集活動において、安定的な志願者を獲得するためには、定期的に認知度アップを図るための広報強化が重要である。そこで、本事業にかかる学生募集の広報活動として、(1)志望者母数の裾野を広げる広報、(2)本学が求める学力レベルの受験者層獲得に向けた広報、に注力して実施し、対面広報と非対面広報の両面から連動した取り組みを行なっていく。学部の学びの特長や将来のキャリアイメージなどを中心に、受験生・保護者・高校教諭等学校関係者に広くアプローチしていく。

≪実施計画≫

①現代社会学部開設事業(学長室企画課、会計課)

- (1) 現代社会学部設置認可申請と認可(2022年3月申請→8月認可)。
- (2) FAL(フィールドワーク型アクティブラーニング)の体制など教育研究環境・運営体制の整備。
- (3) 現代社会学部開設記念シンポジウムの開催。

②新学部開設に係る学生募集広報事業(入試部入試課)

コロナが収束していない状況下にあっては、対面広報とともに非対面広報が重要な学生募集活動となる。興味・関心のある潜在的な受験者層や本学が求める学力レベルの受験者層に直接アプローチし、一定間隔で現代社会学部の「まなびの情報」を繰り返し届ける『リーフレットDM企画』を中心にターゲティング広報を展開する。さらに、WEBの特設サイトを充実させ、アピールポイントを訴求する。

【具体的指標・効果(成果検証)】

①現代社会学部開設事業の推進【2023年3月までに】(学長室企画課、会計課)

- (1) 文部科学省への現代社会学部設置認可申請について、2022年8月末の認可を得る。
- (2) 現代社会学部開設までに教育研究環境・運営体制を整える。(2023年3月末まで)
- (3) 現代社会学部開設記念シンポジウムを開催する(2022年10～11月開催予定)

②新学部開設に係る学生募集広報事業(入試部入試課)

「各種入試」「公募制推薦」「一般選抜」の入試を実施し、十分に定員確保できる受験者数を獲得する。

No.1 事業計画名称: 教学マネジメントにおける学修成果の可視化とアセスメントの実行

[申請部署: 教育・学生支援機構]

【必要性・目的、実施計画等】

《必要性・目的》

今後到来する予測困難な時代にあつては、大学を取り巻く環境もさらに大きく変化していくことが予測される。さらには、18歳人口が急速に減少する一方で、大学進学率は上昇しており「多様化する学生に対する課題」が顕在化してきている。

このような状況において、すべての学生に対してきめ細かな教育の提供が最優先課題であり、第Ⅲ期中期目標・計画において「広国教育スタンダード※に基づく教育改革の確実な実行」を掲げ、「入学から卒業まで一貫した学生支援体制の構築」「ディプロマ・ポリシーに基づく人材育成(教育の質保証)」を進めているところであり、2022年度がその最終年度に当たる。

教育の質保証においては、「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」で示されているように、教学マネジメントの確立が必要であり、大学が学生の学修成果に関する情報や大学全体の教育成果に関する情報を的確に把握・測定し、教育活動の見直し等に適切に活用する必要がある。また、各大学が積極的に説明責任を果たしていくという観点からも大学全体の教育成果や教学に係る取組状況等の大学教育の質に関する情報を把握・公表していくことが重要であるとされている。

これらを実現させるためには、正課・正課外活動を通じた学生の成長記録と学修成果の蓄積と可視化を図り、教育の質保証に向けた取り組みは不可欠である。

※「広国教育スタンダード」とは

ディプロマ・ポリシーに基づき、周囲と連携しながら、社会で役立つ人を目指す、本学独自の教育の仕組み

《実施計画》

- ① 教学マネジメントにおける学修成果の可視化とアセスメントの実行
- ② 入学前から卒業までの一貫した教育・学生支援の提供

【具体的指標・効果（成果検証）】

実施計画に基づく、導入初年度の以下項目の実施(2023年3月に年次検証を実施)

- ① 広島国際大学「アセスメントプラン」に基づいた点検・評価活動の実施
- ② 学修成果可視化システム(Assessmentor)を用いた新たな学生支援・指導体制の構築
- ③ 正課・正課外活動を通じた学生の成長記録、学修成果の蓄積と可視化
- ④ アカデミック・アドバイザーを中心とした、定期的な面談(学生へのフィードバック)の実施と記録

【必要性・目的、実施計画等】

《必要性・目的》

「ユニバーサルキャンパス」の実現を目指し、2017年度以降、広島国際大学の施設整備が行われた。学園創立100周年の節目となる2022年、広島国際大学の開学25周年とあわせた記念事業を実施することで、学外へ本学の取り組みを広く宣伝できる機会とする。

《実施計画》

「健康フェア」、「地域交流イベント」、「その他学科等によるイベント」を、広島国際大学全キャンパスで開催する。

- 1) 健康フェア
 - ・健康をテーマとして、学科毎にイベントを実施する。
- 2) 地域交流イベント
 - ・スポーツ選手を招いて参加者(小・中・高・大学生を対象)と一緒に競技を行い、交流を深める体験型のイベントや、スポーツをする人への応援や、スポーツ・運動への興味を喚起するメッセージといった内容で講演会等を実施する。
- 3) その他学科等によるイベント
 - ・学科や事務部署において、学内外に向けた各種イベント等を開催する。

【具体的指標・効果（成果検証）】

- 1) 健康をテーマとしたイベントを各学部学科で実施して来場者にPRすることで学部学科の理解を深める。
- 2) 有名なスポーツ選手を招いて、スポーツ選手と交流を深める体験型のイベントを開催することで、本学の認知度を高める。
- 3) 学科や事務部署で企画した学内外向けのイベントの名前に「学園創立100周年および広国大開学25周年記念事業」の冠りを付して実施し、本学の認知度を高める。

No.1 事業計画名称:中学校STEAM教育の実施に伴う、探究授業の拡大

[申請部署: 高校教頭、中学教頭、教育イノベーションセンター]

【必要性・目的、実施計画等】

《必要性・目的》

本校は10年以上にわたり、キャリア教育を通じてアクティブラーニングを展開してきた。高校では、4年前より一貫コースⅠ類、スーパーコースならびに薬学・医療系進学コースの生徒を対象に、8つのゼミ活動を通して生徒の科学的探究心を育成する「ガリレオプラン」を開始した。タブレットなどのICT機器を活用して、学園内大学の研究室や企業と連携するほか、海外の学生との交流を行うことにより、「科学的探究心」と「21世紀型スキル」を育成し、将来の進学先へと繋ぐ教育を展開した。来年度は、中学校でもSTEAM教育を新たに開始し、プログラミングや科学実験を行うなど、高校のガリレオプランに繋がる教育を実践する。

《実施計画》

1. 2022年度(1年生「ガリレオプランⅠ」、2年生「ガリレオプランⅡ」、3年生「ガリレオプランⅢ」)

一貫コースⅠ類、スーパーコース、薬学・医療系進学コース対象

①科学探究プログラム「ガリレオプラン」の指導法

- ・教材の研究開発、本校教員と学園内外の大学教員、TAとの連携による実験技術指導
- ・タブレットなどのICT機器、デジタル教材等を活用した授業法の研究
- ・学園内大学各研究室や企業との連携、高大接続の在り方の研究

②各大学との連携

- ・高大接続の推進
- ・学園内大学の研究室訪問
- ・サイエンス・フォーラムにおける著名人の講演会実施
- ・タブレットを利用した海外の生徒との交流
- ・英語によるプレゼンテーションの取り組み
- ・海外研修、海外姉妹校提携など、国際性を育成する取り組み

③成果発表(英語発表含む)

- ・各種科学系コンテストや他校で開催される発表会への参加
- ・校内発表会の開催

2. 中学校STEAM教育の実践

2022年度1年生「常翔STEAMⅠ・Ⅱ」、2年生「常翔STEAMⅢ・Ⅳ」

①常翔キャリアアップチャレンジ「常翔STEAMⅠ・Ⅱ」の指導法

- ・タブレットやオリジナルプリントを使用し、概要説明、アイスブレイク、各自演習、グループワーク、振り返りなど、アクティブラーニングを中心に、コアコンピテンシーに基づく資質能力を向上させる指導

②各大学との連携

- ・各STEAMの内容により、中大接続の推進、学園内大学訪問、著名人による講演会実施

③成果発表(英語発表含む)

- ・各授業でチーム内発表、クラス発表をし、振り返り
- ・各期間で身につけた資質能力を計るため、目的・目標に合わせた成果発表会を実施

最終的には、科学の甲子園ジュニア、科学オリンピックへの参加を目指す。

【具体的指標・効果(成果検証)】

期待される効果

- ・理系ブランド校としての認知により、優秀な生徒獲得につながる。
- ・「理系進学者の減少、特に女子の減少」をくい止め、我が国の理系教育・科学立国に貢献する。
- ・他校だけでなく、本学園の学校間の連携もより強化される。
- ・大学との連携により、生徒が進路や将来について検討する機会となる。
- ・生徒の「課題設定能力・科学的探究心」の育成に繋がる。
- ・他校生、特に海外の生徒との交流を通じてコミュニケーション能力やグローバルマインドの育成に繋がる。

No.2 事業計画名称:グローバル教育に伴う国際交流事業、英語4技能に対する生徒の能力向上と
教員の新しい指導法の修得

[申請部署:高校教頭、中学教頭、教育イノベーションセンター]

【必要性・目的、実施計画等】

《必要性・目的》

グローバル化やAIなどによる社会の劇的な変化に対応した教育を展開するため、2019年度に新設した「教育イノベーションセンター」が中心となって国際交流事業を再開する。そして、校内にネイティブ教員や留学生が在籍していることが日常となること
によって、生徒ならびに教員がグローバルやダイバーシティを意識し、英語を通して日常的にコミュニケーションが取れるレベル
を目指す。また、2021年度大学入学共通テストの英語が2技能化、やがては4技能化するため、生徒たちには実践的な英語力
を身に付けさせる必要があり、教員も校内外の研修会を通し、適切な指導法を学ぶ必要性が生じる。

《実施計画》

＜学校全体＞・海外の複数の学校と姉妹校を締結し、交流を通して生徒と教員のグローバルマインド、ダイバーシティ感覚を
身に付けさせる。

＜高校＞・高校1・2年生の英語授業にネイティブ英語教員を2名配置し、英語4技能を指導する。
・高校1、2年生を対象にネイティブの教員や留学生が指導する英語プログラム(1年:Basic English Camp、
2年:Global Leaders Camp)を開催し、英語力だけでなく、英語を通してロジカルシンキング、クリティカルシンキ
ングを学ぶ。
・高校1、2年生の英語授業に、1人1台のiPadを通じてネイティブとのオンライン英会話授業を行う。

＜中学＞・中学3年生の英語授業や総合的な学習の時間を利用し、ネイティブ講師による英会話の授業を実施する。

＜教員＞・英語教員に対し、英語スキル・指導技術の優れた講師による集中した校内研修を行う。

【具体的指標・効果（成果検証）】

＜高校＞

・卒業までに30%以上の生徒が英検2級以上に合格、準2級以上に70%が合格する。
(2020年度卒業生実績 2級以上:145人、25.0%、うち4人は準1級)(準2級以上:380人、65.6%)

＜中学＞

・卒業までに35%の生徒が英検準2級以上に合格、3級以上に80%が合格する。
(2020年度卒業生実績 準2級以上:31人、23.5%、うち2人は2級)(3級以上:80人、60.6%)

No.1 事業計画名称:学園創立100周年記念啓光祭実施事業

[申請部署:生徒指導部・事務室]

【必要性・目的、実施計画等】

《必要性・目的》

学園の設置学校として、学園創立100周年の記念イベントとして啓光祭（文化祭）を拡大開催する。
グラウンド人工芝化工事が完了し柿落としイベントと同時開催し、人工芝グラウンドを内外に周知するため。
学園の創立100周年を大々的に祝う。

《実施計画》

2022年9月3日（土）開催の啓光祭（一般）とグラウンド人工芝柿落としイベントを同時開催する。
例年以上に盛り上げるイベントとする。

●啓光祭 テーマ「百花斉放」

成果発表：中学校

展示：高1学年

映像（舞台）発表：高2学年

模擬店：高3学年

記念イベント：野口啓代氏（東京オリンピック銅メダリスト）のトークイベント（予定）

ホームカミングデー：卒業生

●グラウンドイベント（予定）

啓光ラグビー部OB戦・他校招待試合・ラグビーフェスティバルを同時開催

・有名ラグーマンのトークイベント

クライミング大会（理事長杯）

献血バス&啓発イベント シンポジウム

人工芝グラウンドを走ってみよう！50m測定会！

・主なターゲット：幼児～中学生、数十年ぶりに走ってみようかなという保護者など

・内容：直線で50mのタイムを測定(体力テストの要領で)

・目的：新たにできたオールウェザーの走路を体験してもらうこと。

【具体的指標・効果（成果検証）】

来校者数を目標2,500名（例年1,500名程度）とする。

常翔啓光学園のグラウンドが人工芝に変わったことを内外に示し、受験者数の増加に繋げたい。